

本はどのように読んだらよいか

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。
2. 今日の「開倫塾の時間」は新年 2 回目の放送に当たりますので、「本はどのように読んだらよいか」というお話をさせていただきます。学力を身に着けるのに最もよい方法については、いろいろな考え方があると思います。私は、本を読んで思考能力といいですか、思慮深さを養うことが一番よい方法だと思います。読書をする、思慮深さが身に着くからです。ものごとを深く考えて、自分自身を見つめ直したり世の中のことを考えたりする、これが読書することによって得られる能力、つまり思慮深さだと思います。
3. では、読書はどのようにするとよいのでしょうか。その一つとして、本は何回ぐらい読んだらよいのかという観点から読書をとらえる考え方もあります。私の尊敬する方に神長善治さんというオマーンやネパールの大使をなさった外交官の方がいらっしゃいます。その方に「大使、本はいったい何回ぐらい読んだらよいのでしょうか。」と御質問させていただきましたら、「6 回ぐらい読んだほうがいい。」というお答えでした。「そんなに何回も読むのですか。」とお尋ねしたところ、「難しい本はやはり 5、6 回読んだほうがいいのではないか。林君、1 回や 2 回読んだだけで内容がわかるのかね。」と言われ、「ああ、そうか。やはり大使のような方でも大切な本は 5、6 回読むのだなあ。」と思いました。それ以来、本の読み方について考えるようになりました。
4. 次は、本を読むときにはどのように読んだらよいかということについてお話します。1～2 時間で半分ぐらい読めてしまえるような簡単な本もあり、そのような本を読むことは気持ちをリラックスさせる上で大切かもしれません。ただ、読みながら考えたり知識を身に着けたりする場合には、ちょっと違う読み方をしたほうがよいと思います。私がお勧めしたい方法は、読みながら自分でノートを取る、要点のメモをつくりながら読む方法です。そんなことを考えながら、佐藤優さんという方が東洋経済新報社から出している「読書の技法」という本を読んでいたら、非常に参考になる話を書いてありました。そこで、少し紹介させていただきます。佐藤優さんも外交官で、ロシアの研究で有名で本もたくさん出していられっしゃいます。
5. 佐藤優さんの勧める読書の技法は、次のようなものです。本は 3 回ぐらい読んだほうがよいそうです。シャープペン・消しゴム・ボールペン・ノートを用意して、1 回目は大切と思うところにシ

シャープペンで印をつけながら読みます。重要と思う部分の欄外には線を引き、わからない部分には？(クエスチョンマーク)をつけ、重要かどうか迷う部分にもとりあえず線を引いてみることを勧めています。そして、2 回目に読むときに、いらななと思うところはシャープペンでつけた印を消していきます。また、読書に適した時間についても述べられていて、疲れ切っている深夜よりも早朝のほうが記憶への定着が圧倒的に高いので、できれば読書は朝したほうがよいのではないかということなのです。

6. これらをまとめますと、シャープペン・消しゴム・ボールペン・ノートを用意して、1 回目はここは大事だと思ったところに印をつけながら読みます。2 回目に読むときは、ここは大切だと思ったところに囲みの印をつけます。そして、印をつけた囲みの部分をノートに書き写す作業を行います。
7. では、どのようなところを書き写したらよいかというと、「これはこうだよ」ということばの定義、ことばの意味、数字、固有名詞などに言及している場合、そういうことが書いてある場合はノートに書き写しておいたほうがよいとのことなのです。やはりことばの意味はわかっていたほうがいいですよ。また、重要だと思うが自分ではよくわからない部分も書き写しておく、非常に面白くなります。それから、わからないという評価をノートに書くことが記憶を定着させて理解を深めるコツだということで、佐藤優さんはそうすることも勧めています。
8. ちなみに、英語力をつけようと思う方は、まずは優れた日本語の翻訳を読んだあとに、気に入ったところをノートに書き写します。そして、原本を買ってきてノートに書き出した部分の英文を探し、これもノートに書き写します。この作業を積み重ねると読む力がたいへんついてきますので、これも是非お勧めしたいと思います。
9. 3 回目は、自分の気に入ったところを繰り返し繰り返し読んでみます。そして、自分の考え方をもっと深めます。このような本を読む方法を、外交官であった佐藤優さんが「読書の技法」という本の中で紹介しています。
10. 学力を身に着ける 1 つの方法としては、本をいっぱい読んで思慮深さを身に着けることが大事だと思います。皆さんも、ここで紹介した方法を参考にしながら大切な本をゆっくりゆっくりと読んでみてください。本は 6 回読むというのは一つの考えですが、3 回ぐらいでもよいのではないかと思います。ただ、英語やスペイン語など語学の本はやり方が違います。私は、今年はラテン語を勉強しようと思って本を買ってきましたが、このような語学の本は 5 回とか 6 回とかではなく、1 けた多く 50 ～ 60 回読まないとなかなか身に着かないと思います。是非参考にさせていただければと思います。